

大臣就任 祝



〔郷土入り——富士駅前で挨拶する斉藤建設大臣〕

富士市から初の大臣が誕生—。

8月9日、斉藤滋与史建設大臣が就任後はじめて郷土入りをしました。

歓迎会場に当てられた国鉄富士駅前では、渡辺市長が「斉藤建設大臣は郷土の誇り、これからも国政の場でご活躍を……」と歓迎のことばを贈りました。

これに対し、斉藤大臣が集ったおおぜいの市民の歓迎に答えて「私は建設大臣であると同時に富士市民であります。大臣就任はひとえに市民のみなさんのお蔭であり、これからも国政のため、郷土富士市のため大いに頑張ります。」と力強く挨拶。



〔富士駅前で歓迎のことばを贈る渡辺市長〕



〔市民の歓迎にこたえる斉藤建設大臣〕



〔市庁舎南側広場で開かれた就任祝賀会〕

このあと、市庁舎南側広場で就任祝賀会を開き、渡辺市長、森野市議会議長らがお祝いの言葉をのべ、山本県知事もお祝いにつけました。

この日、富士から吉原へ向う途中の両商店街には、大臣就任を祝う横断幕が張られ、手に手に小旗をかざした市民が沿道に出迎えました。また、歓迎、祝賀両会場も小旗と拍手の波に揺れ、夏空のもと、街は大臣の歓迎祝賀一色につつまれました。

斉藤建設大臣就任を祝う

初の郷土入りに市民の歓迎



大学の誘致を

〔こえ〕富士市は、文化の落こぼれ都市といわれています。

工業の著しい発展により、活気が

ある反面、文化を忘れてきたのがいままででした。

大学に進学する子ども達も多くなり、親の負担は大きくなっています。

富士市の発展と、文化向上のために、大学設置を一日も早く願わずにはられません。（一市民）

〔こたえ〕大学及び短期大学への進学率は、年々増大の傾向にあり、富士市においても50弱の進学希望者がいます。

富士市のもつ社会的、経済的特性

や、環境面などを総合的に判断したとき、大学又は、短期大学の設置を望む声は、必然であろうと思います。

市としても何とか早期にとの考えから、誘致について積極的に、関係方面（国、県等）に働きかけています。

昨年も県知事をはじめ、文部省などにも陳情しました。

今後も誘致について努力いたしますのでご理解をお願いいたします。

（市教育委員会）